

10. ヒヤリハット体験当事者の属性(回答者は当事者A)



○当事者A	年齢[40]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[16]年、階級[消防士長] 同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢□歳、勤続年数□年、現場経験年数□年、□ 同様の活動 □、任務 □
○当事者C	年齢□歳、勤続年数□年、現場経験年数□年、□ 同様の活動 □、任務 □
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A	警戒出動現場へタンク車で緊急走行していた。	他に隊長、隊員の計3名で出動
経過2	A	冠水した道路を発見、水深が浅かったため、そのまま走行した。	
経過3	A	車両下方から異音が発生した。	
経過4	A	ブレーキ確認のため、操作すると効きにくくなっていた。	
経過5	A	速度を落として走行した。	豪雨が降っている夜間であり、他の走行車両が極端に少なかったため
経過6	A	冠水区間を脱した後、ブレーキ操作をすると症状が回復していた。	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで淀んだのはどうしてだと思うか？

避難・退避がうまくいった
資器材の操作がうまくいった
危険情報を把握、予見できた
集中力・注意力があった

指揮者が適切に指示した

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が湊防退動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境や、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

道路の冠水情報もなく、車両の通行は十分可能と認識したため

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--



水深約10cm.